

本年度の学校評価

| <p>本年度の重点目標</p> | <p>1 安全で安心な学校づくり (1) 健康、防災、食育、健康、人権への配慮 (2) 教職員の子どもと向き合う時間の確保及び業務の効率化 2 個に応じた指導の充実と協働的な学びの推進 (1) 時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上 (2) 主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善 (3) 地域、学校間との連携強化 (4) 令和の日本型学校教育を意識した ICT の積極的な活用 3 学校からの発信力の強化 (1) センターの機能の充実 (2) ホームページ、インスタグラム等の活用による情報発信</p> | | |
|-----------------|--|--|--|
| <p>担当</p> | <p>重点目標</p> | <p>具体的方策</p> | <p>留意事項</p> |
| <p>幼稚部</p> | <p>・分校との連携活動及び交流活動の充実を図る。 ・発達に応じた生活習慣、生活言語の習得を促す。</p> | <p>・本校とひがしうら校舎との連携を密にし、ICTを活用するなどスムーズな連絡や相談を行うことで、教育活動に生かす。また、事前事後指導を丁寧に行うことで、本校・分校の子どもたちがつながりを感じられるようにする。 ・季節や生活、行事など身近な題材を取り上げ、豊かな言語活動を図る場を積極的に設ける。</p> | <p>・ひがしうら校舎との連携は新しい取組となるため、さまざまな方法を試しながら、効果的かつ効率的に継続していける方法を検討していく。また、写真等個人情報の交換の際には、その取り扱いに十分配慮する。 ・課題の設定、問いかけや支援を工夫することで、体験と言葉をより深く結び付けられるようにしたり、子ども自らの反応を促したりできるようにする。</p> |
| <p>小学部</p> | <p>・個のニーズに応じた教育活動とキャリア教育の充実を図る。</p> | <p>・保護者との連絡、連携の機会を大切にし、児童の実態とニーズを把握する。 ・個に応じた指導や協働的な学びの充実を図るため、教員間の情報交換や授業研修を実施する。 ・名古屋聾学校との連携により、児童と保護者ともに将来の道筋を描く機会をもつ。</p> | <p>・教員同士が積極的に話し合える雰囲気作りを行い、些細な事柄でも情報共有することによって、主体的な発信ができるようにする。 ・児童や保護者のあらゆる声に耳を傾けると共に、児童の良いところを進んで認め、自信や向上心をもつことができるようにする。 ・教員同士の積極的な授業参観を行い、互いに授業を参観し合いながら、ICTの活用を含めた教材教具、授業展開について、授業研究を進めていく。 ・部主事が中心となり、名古屋聾学校と密に連携し、縦断的なキャリア教育を推進する。</p> |

| | | | |
|---------|--|---|--|
| ひがしうら校舎 | <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育を進めるにあたり、地域や学校等と連携し、交流及び共同学習を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・(幼稚部)近隣の保育園と年7回の交流を行う。 ・(小学部)本校や近隣の小学校、高等学校(部活動を含む)、他の特別支援学校と交流する機会を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域や学校間と連携を密に取り、継続的、計画的に行う。 ・交流実施後に教職員間で振り返りを行い、次の学習につなげる。 |
| 教務部 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材室や指導室を整理整頓して、教材を探しやすくし、使用しやすくする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に1回、大掃除をするなど、定期的に片付けを行うようにする。 |
| 総務部 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和の日本型教育を意識したICTの積極的な活用とホームページ、インスタグラム等の活用による情報発信を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学部児童のタブレット活用を促し、指導者の技術を高めるための研修を実施する。 ・ホームページやインスタグラムで学校、幼児児童の様子を適切に発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部研修を活用するとともに授業力向上のための情報交換を行う。 ・個人情報保護に努めながら、適切な方法や対象を選択する。 |
| 研究研修部 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害に関する専門的な知識を高め、実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動分野に視点を置き、研修と実践を行う。 ・進路や就労、聴覚障害教育に関する情報等について研修を行い、日々の授業実践に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校とひがしうら校舎の職員が連携し、発達段階に応じた段階的・系統的な指導について考える。 ・外部の専門家(言語聴覚士)を招き、自立活動に関する助言をいただく。 ・自分の障害について考えるきっかけを作る。 |
| 生活指導部 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分や周りのことを考えて行動できる子ども。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近な体験や出来事などを通して考え、判断し、適切な言動ができるための指導支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の思いや考えを尊重した指導を行う。 ・いじめや差別、偏見のない生活を送るための指導や支援を行う。 |
| 保健体育部 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全に留意し、健康な生活を送る態度・能力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・けが・病気の予防や生命の安全教育について、朝会などで講話を行ったり、日常生活場面における指導で注意を促したりしながら、学校生活や日常生活の中で実践できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な手洗いや換気、生活場面に潜む危険などについて、継続的に指導を行い、健康かつ安全に過ごすことを意識できるようにする。 ・生命の安全教育については、文部科学省からの教材など工夫して活用することで、安全に過ごすことができるようにする。 |

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| いじめ防止に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題に対する情報を共有し、学校全体で組織的に指導に当たる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回実施する児童対象の「心のアンケート」により早期発見に心掛ける。 ・「学校いじめ不登校対策委員会」を設置し、情報共有を図りつつ学校全体で対応する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・心のアンケート結果の内容を、保護者や学校全体で周知し児童の抱えている問題点を共有する。 |
| 多忙化解消に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校と分校の連携方法を確立し、業務の効率化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に連携方法(資料の確認方法・リモート方法等)の共通理解を図って実践することにより、課題を明確にしながらか修正する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各校務部会などであがった課題については、常に全体で共通理解を図り、全体の会議の改善につなげる。 |
| 学校関係者評価を実施する主な項目 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童の自立と社会参加に向けて、一人一人の障害の状態や発達段階に応じたキャリア教育について ・時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上について ・情報提供ツールを利用した学校からの発信力の強化について ・子どもたちの教育及び職員の業務における本校、校舎との連携について ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止について | | |